

交渉の議事要旨

課 所 等 名	開 催 日 時	開 催 場 所	出 席 者		議 題	発 言 概 要	配 付 さ れ た 文 書 等
			当 局 側	職 員 団 体 側			
経 理 課 契 約 課	平成26年9月17日(水) 17:30~17:52(22分間)	室蘭開発建設部 1階中会議室	経理課 内藤 義昭 課長 長尾 敦史 契約課 臼井 義晃 課長	全北海道開発局労働組合室蘭支部 経理・契約分会 執行委員長 和田 友佳 書記長 市戸 麻美子 執行委員 館 秀光 執行委員 佐藤 伸一 執行委員 廣瀬 希 執行委員 植田 康人	当課における超過勤務の縮減について	○職員団体側から 職場状況を適切に把握して、超過勤務の縮減に向けた取組を進めてもらいたい。 ○当局側から 本来、業務は勤務時間内で処理することが望ましいと考えるが、業務の性質や時期によっては、超過勤務が避けられない場合がある。今後とも、職員の健康に十分配慮しつつ、きめ細かな業務の進行管理に努め、超過勤務の縮減を図っていききたい。	なし
用 地 課	平成26年9月30日(火) 16:30~16:36(6分間)	室蘭開発建設部 3階会議室	用地課長 横山 実	全北海道開発局労働組合室蘭支部 用地分会 執行委員長 工藤 淳央 書記長 矢野根 博	当課における超過勤務の縮減について	○職員団体側から 今後も超過勤務の縮減に努めてもらいたい。 ○当局側から 超過勤務の縮減に向けて、当局としては、職場の超過勤務の実態等を踏まえ、業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理に努めてきたところである。また、超過勤務を命ずる場合は職員の健康を害しないように考慮しているところであり、今後もこの点に十分配慮するとともに、きめ細かな業務の進行管理に努めていききたい。	なし
公 物 管 理 課	平成26年8月7日(木) 17:30~17:55(25分間)	室蘭開発建設部 3階会議室	公物管理課長 加藤 義道	全北海道開発局労働組合室蘭支部 管理分会 執行委員長 木下 靖久 書記長 城市 健太郎 執行委員 筒井 剛哉	当課における超過勤務の縮減について	○職員団体側から 超過勤務の縮減について、どのような考えで取り組んでいるのか。また、特定の者に超過勤務が偏っている状況も見られることから、縮減により一層努力してもらいたい。 ○当局側から 超過勤務の縮減については、職場の超過勤務の実態等を踏まえ、業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理を行うとともに、週休日及び休日出勤の縮減、定時退庁日における定時退庁の励行などに努めてきたところである。また、超過勤務を命ずる場合には、職員の健康を害しないように考慮しているところであり、今後とも、この点に十分配慮するとともに、きめ細かな業務の進行管理に努めていききたい。	なし
苫小牧河川事務所	平成26年8月19日(火) 17:20~17:25(5分間)	苫小牧河川事務所 会議室	苫小牧河川事務所 所長 伊藤 禎朗 総務課長 逢見 理幸	全北海道開発局労働組合室蘭支部 苫小牧河川分会 執行委員長 岩田 清徳 書記長 森 崇志	当事務所における超過勤務の縮減について	○職員団体側から 長時間に及ぶ超過勤務を行っている職員がいることから、超過勤務の縮減を求める。 ○当局側から 業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理を行うとともに、やむを得ず週休日及び休日に勤務を命じる場合は振替制度や代休制度を活用するほか、定時退庁日における定時退庁の励行など、超過勤務の縮減に努めていききたい。また、超過勤務を命ずる場合には、職員の健康を害しないように考慮しているところであり、今後とも、この点に十分配慮するとともに、業務の進行管理にも一層努めていききたい。	なし

交渉の議事要旨

課 所 等 名	開 催 日 時	開 催 場 所	出 席 者		議 題	発 言 概 要	配 付 さ れ た 文 書 等
			当 局 側	職 員 団 体 側			
苫小牧港湾事務所	平成26年8月28日(木) 13:30~13:40(10分間)	苫小牧港湾事務所 入札室	苫小牧港湾事務所 所長 盛田 泰寛 副所長 石井 彰 総務課長 猪本 勝	全北海道開発局労働組合室蘭支部 苫小牧港分会 執行委員長 西多 菊代 書記長 渡邊 毅人	当事務所における超過勤務の 縮減について	<p>○職員団体側から 特定の者が慢性的に超過勤務を行っていることから、適正な業務配分や更なる超過勤務の縮減に取り組んでもらいたい。</p> <p>○当局側から 当事務所としては、職場の超過勤務の実態等を踏まえ、業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理を行うとともに、週休日及び休日出勤の縮減、定時退庁日における定時退庁の励行などに努めてきたところである。今後も、特定の職員に過度な負担がかからないよう十分配慮するとともに、きめ細かな業務の進行管理に努めていきたい。</p>	なし